

LMcorsa

60  **H.YOSHIMOTO**
 **R.MIYATA**

SUPER GT 2019 Race Report Rd.5 Fuji 500mile GT

8月4日 | 天候：晴 | コース：富士スピードウェイ | 路面:ドライ(路温:51度)

Final Day Summary

酷暑の中での500マイルレースはドライバーもチームも最後までミスなく走り切ったがレースペースが上がらず22位でチェッカーを受ける

Final Day

SUPER GT シリーズの中でもっとも長丁場となる500マイル(807km)の「FUJI GT 500mile RACE」が、8月4日(日)に富士スピードウェイで実施された。

前日に行なわれた予選では、前回大会のタイ戦から大幅な変更と新たな挑戦を試したLMcorsa。しかし、コース状況とのマッチングが今ひとつで、結果はシーズンワーストとなる27位となった。

それでも決勝レースは4回のピットストップが義務付けられていて、普段の決勝レースの2倍以上となる約800kmを走行する。展開やコースコンディションの変化によってはチャンスが来ることもあると願い、チームは決勝レースへの対策を立てた。

決勝日となった4日も朝から気温が上がり、8時にスタートしたサポートレースの時点で気温が27℃、路面温度が33℃となっていた。その後も雲ひとつない青空の下で気温は上昇。11時55分からスタートしたウォームアップ走行時には気温が30℃を超え、路面温度は58℃という過酷な状況となった。20分間のウォームアップ走行では、吉本大樹選手と宮田莉朋選手の2人のドライバーがSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握り、決勝レース前の最後の確認を行なった。500マイルの決勝レースは、10分遅れの13時40分にパレードラップによって幕を明ける。スタートドライバーを務めた宮田選手は、オープニングラップで4つポジションを上げて23番手でコントロールラインを通過。



3 周目にはさらに 2 台をパスして 21 番手に、5 周目には 20 番手にポジションを上げてトップ 10 内への浮上も期待される走りを見せた。しかし、10 周を過ぎるとラップタイムが落ち込み始め、ポジションを守るのがやっとの状況となる。

決勝レースは前述のように 4 回のピットストップが決まりとなっているので、走行距離から均

等に割ると 1 つのスティントで 32 週の走行が必要となる。そのため早めのピットストップを決断

するのが難しい。それでもペースが伸びないと判

断したチームは 24 周目に宮田選手をピットに呼び

戻して、タイヤ交換と給油を行なうとともに吉本

選手にドライバーチェンジ。

第 2 スティントでも最初の数周こそライバル勢と

同等のラップタイムで走行したが、徐々にペース

が落ちる傾向は同じで厳しい展開となる。26 番手

でコースに復帰した吉本選手は、22 番手まで順位

を戻すのが精一杯で、43 周目に早くも 2 回目のピットストップを行なう。2 回目の走行となった

宮田選手は、27 番手でコースに戻ると淡々と周回を重ねた。67 周目には GT500 クラスのマシン

がクラッシュしたために、セーフティカーが導入される。セーフティカーが入るタイミングも味方

せず、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 はこの時点でトップのマシンから 2 周遅れとなってしまふ。

73 周目にレースはリスタートし、23 番手から少しでもポジションを上げようと宮田選手は必死

に走行を続けた。40 周を超えるロングスティントをこなし 84 周目にピットイン。吉本選手にド

ライバーチェンジし、給油とタイヤ交換を行なう。

ピーク時よりも気温と路面温度ともに下がってきた

ので終盤に向けてペースを上げたかったのだが、思

うようにパフォーマンスを発揮できず第 4 スティン

トも終了。123 周目にピットに戻った吉本選手は、

最後のスティントを宮田選手に託した。25 番手で

コースに復帰した宮田選手は翌週に 1 つポジション

を上げると、131 周目にも順位を上げて 23 番手と

なる。やはりラップタイムは伸びず、トップ集団と

は 1 周で 2 ~ 3 秒ほど離される厳しい状況。それでも最後まで諦めずに攻め続けて、160 周目に

22 位でチェッカーを受けた。

状況を改善するために新たなトライを行なった LMcorsa だったが、それを活かすことができず

に長丁場のレースを終えることとなった。この状況に満足している関係者は一人もいないのは間違

いなく、翌週に控えているスポーツランド SUGO での公式テストを含めて、残り 3 戦で結果を残

すためにチーム一丸で戦い抜く。



Team Comment



Director :飯田 章

厳しいレースでしたが結果とは別に、500 マイルのレースをチームは完璧なピットワークで送りだし最後まで戦い抜きました。しっかりとチェッカーまでマシンを走らせることができたのは、チームやドライバーのお陰だと思っています。一方で、シーズン前半から課題になっているところが改善できなく、このような結果となっています。テストをする機会は少ないですが、シーズン終盤では努力が実るようにしたいです。



Driver :吉本 大樹

昨日の公式練習と予選の状況と一緒に、全体的なラップタイムがライバル勢に対して劣っていたため勝負権がありませんでした。長丁場だったためコンディションが変わればという思いもありましたが、どのような状態でもまわりのマシンに対して1周につき1～2秒ほどの遅れでした。富士スピードウェイはRC F GT3にとって得意なコースではありませんが、それでも水をあけられすぎです。残りのレースは、相性の良いサーキットも残っているので、是が非でも上位に入れるように努力していきます。



Driver :宮田 莉朋

レース序盤の10周程度は先行していたマシンを抜くことができ、レースになるかと思いましたが、それ以降は厳しい展開でした。レースを5つのステイントに別けると1回あたり30周以上は走らないといけません。攻めすぎるとステイント後半のタイヤのパフォーマンスがきつくなり、プッシュは続けましたが結果に繋がりませんでした。シーズンは残り3戦と少なくなっているので、テストも含めて一戦一戦を集中して戦っていきたいです。

